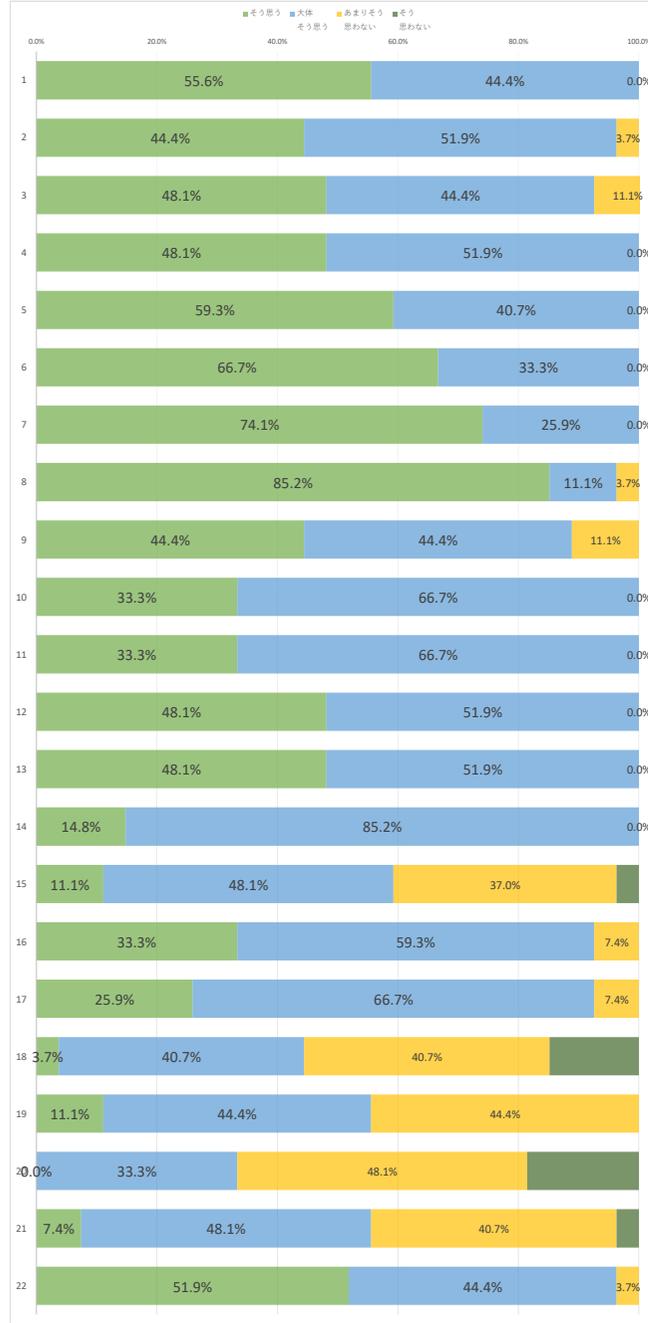


我孫子市立湖北小学校 令和6年度 「よりよい学校づくりアンケート」学校評価アンケート（教職員）

		そう思う	大体 そう思う	あまりそう 思わない	そう 思わない
1	学校は教育目標や方針、活動をわかりやすく伝えている。	55.6%	44.4%	0.0%	0.0%
2	学校は様々な行事や体験を通じて、児童の「生きる力」を伸ばそうと努力している	44.4%	51.9%	3.7%	0.0%
3	学校は、施設・設備の安全管理や校舎内外の美化等、環境の整備に努めている。	48.1%	44.4%	11.1%	0.0%
4	学校は、保護者や地域の期待に応える教育活動を行おうと努めている。	48.1%	51.9%	0.0%	0.0%
5	学校は、いじめのない学校づくりに努めている。	59.3%	40.7%	0.0%	0.0%
6	学校は、保護者や地域の方々に学習や行事を参観する場を設けている。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
7	学校は、学校だよりやHP等で家庭や地域へ情報を積極的に提供している。	74.1%	25.9%	0.0%	0.0%
8	学校は、栄養のバランスや食の安全に配慮して、給食を提供するなど、健康の保持増進を図っている。	85.2%	11.1%	3.7%	0.0%
9	学校は、読書活動を充実しようと努めている。	44.4%	44.4%	11.1%	0.0%
10	教職員は、ICTを活用して、授業を行っている。	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
11	教職員は、主体的・対話的で深い学びを意識して、授業改善に努めている。	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
12	教職員は、子供をよく理解し、相談・支援・指導を適切に行っている。	48.1%	51.9%	0.0%	0.0%
13	教員は、熱心に授業に取り組み、適切に評価している。	48.1%	51.9%	0.0%	0.0%
14	子供は、学校に楽しく通っている。	14.8%	85.2%	0.0%	0.0%
15	子供は、学習内容をよく理解している。	11.1%	48.1%	37.0%	3.7%
16	子供は、学校行事や学習活動に積極的に参加している。	33.3%	59.3%	7.4%	0.0%
17	子供は、思いやりの心をもって人に接している。	25.9%	66.7%	7.4%	0.0%
18	子供は、公共の場でのマナーが守れている。	3.7%	40.7%	40.7%	14.8%
19	子供は、挨拶の習慣が身についている。	11.1%	44.4%	44.4%	0.0%
20	子供は、登校時間、帰宅時間、ゲームやスマートフォンなどの使用時間を守ることができている。	0.0%	33.3%	48.1%	18.5%
21	子供は、正しい言葉づかいが身についている。	7.4%	48.1%	40.7%	3.7%
22	湖北中学校区では、小中一貫教育の充実にも努めている。 ・Abi☆小中一貫カリキュラムに関する実践（Abi-ふるさと・Abi-キャリア）を知っている。 ・小中一貫の日や、その他の小中交流活動等を知っている。	51.9%	44.4%	3.7%	0.0%



<アンケートの結果から>

- 1の質問では、全職員が、学校の教育目標や活動をわかりやすく伝えていると感じている。
- 2の質問の児童の生きる力の育成については、肯定的な意見が多いことがわかる。
- 3の学校の環境整備については、おおむね十分であると感じている職員が多い。
- 4では、全職員が保護者や地域の期待に応えられるよう努力していることがわかる。
- 5のいじめのない学校づくりについては、全職員が十分努力していると感じている。
- 6の保護者の学校行事への参加機会についても全職員が十分と感じている。
- 7の情報発信についての消極的な回答は全くなかった。
- 8の食に関する内容についても肯定的な意見がほとんどであった。
- 9の読書活動については、消極的な回答が多いことから、十分でないと感じている職員がいる。
- 10のICT活用については、十分とは感じているが、大体そう思うの回答の割合が多い。
- 11の授業改善に関する内容についても10同様。
- 12の生徒指導・教育相談についても、意欲的に取り組んでいる。
- 13では、教材研究や指導力向上に意欲的に取り組んでいる。
- 14の児童が楽しく登校していること全職員が回答しているが、大体そう思うの回答の割合が多い。
- 15の学習内容の理解については、約半数の職員はできていると考えているが、理解が十分でないと感じている職員もいる。
- 16の質問では、ほとんどの職員が積極的に学習に参加していると感じている。
- 17の思いやりのある児童については、ほとんどの児童はそうであるが、一部の児童には、そうでないと感じている職員がいる。
- 18の公共のマナーについては、消極的な意見が肯定的な意見を上回っているため、学校外での児童の過ごし方に課題を感じている職員がとて多い。
- 19の挨拶については、課題だと感じている職員が多い。
- 20の時間を守るについては、「できている」と回答した職員はなし。消極的な回答の割合が全回答の中で一番多い。
- 21の言葉遣いについても、19とほぼ同様。
- 22については、ほとんどの職員が小中一貫教育の充実を感じている。

<成果と課題>

今年度の評価として、前年度と同様の質問項目において、肯定的な回答が多くみられることである。学校教育目標や学校経営の方針をほとんどの職員が理解して、教育活動を行っていることがわかる。一方で、「あまりそう思わない」と思う職員がいる点は、職員間での意識の向上や共有が必要となってくる。他によいと評価している内容としては、家庭・地域への情報提供、学校給食についてである。まず、情報提供であるが、毎月のたよりや日々のスクリーン等での連絡、ホームページの更新は、毎日の変化や見通しのある活動によって、保護者に提供されている。児童の向こうにいる保護者や地域を意識して学校活動に取り組んでいる表れだと考える。次に学校給食は、栄養士の努力もあり、職員からも人気がある。現状、アレルギー対応も含め、無理やり食べさせることはしないが、苦手なものは克服できるよう児童の様子を見ながら対応したり、保護者と連絡を取り合ったりしながら、食に関する指導を行っている。

課題としては、まず、15の学習内容の理解であるが、職員一丸となって研修を積み、指導力の向上に努めている。さらなる授業改善に励んだり、個々の実態に応じた指導を行ったり、諦めずに指導を続けていく。次に、公共のマナー、挨拶の励行、時間厳守、正しい言葉遣いについては、児童にやらせるだけでなく、職員自身も気を付けなければならない。児童への指導と合わせて、職員自身も相互に注意し合いながら、学校全体で取り組めるようにしていく。